

次号予告

特集 ブランド価値のモデル化に向けて

プロダクト空間とブランド空間を考慮したジョイント・スペース・マップ:

北米ピックアップ・トラック市場への応用	阿部 誠 (東京大学)
技術のブランド化とそのマネジメント	岡本 智 (日産自動車)
カテゴリー視点からのブランドの評価	里村卓也 (大阪大学)
ブランド指標の信頼性と信頼区間	豊田秀樹 (早稲田大学)
潜在クラス・ロジック・モデルを利用したロイヤルティ・セグメンテーション	守口 剛 (立教大学)

編集後記

●今回の特集は「ABCとTOCの対立と統合」です。ABCは5年前、本誌vol.43.no.1「業務改革のための原価管理：ABCとABM」でも紹介されていました。5年前の特集をあわせてご覧頂ければ、原価管理の世界もずいぶん変わってきていることがおわかりいただけると思います。今回の特集では、会計学会の会長も勤めておられる専修大学の櫻井先生にオーガナイザーをお願いして、最近日本語化されブームとなっているTOCとABCという異なる手法から見た原価管理の世界について、様々な角度から考察していただきました。

●5年前の特集から現在にいたるまで、米国では不正会計疑惑が大きな問題となりました。1つ目は2001年米国エネルギー界の巨人エンロン社の破綻です。負債総額は400億ドル(約5兆円)を超えと言われており、米国史上最大規模の企業倒産です。2つ目は2002年米国の大手通信事業者、ワールドコム社の経

営破綻です。負債総額はおよそ410億ドルと資産規模では過去最大の米企業倒産です。

●これら2つの不正会計疑惑は投資家を中心とする短期的な配当を目的とする米国的な経営システムに起因するところがあると考えられます。しかし、投資家のために情報公開が義務付けられている米国で不正な会計操作を行い、情報を隠蔽したという行為は大きな問題を含んでおり、現代企業の会計システムのあり方についても問題を投げかけました。

●これらの事件からもわかるように、急速な自由化や技術革新によって、一企業の会計システムが一国の経済にも大きな影響を及ぼすようになってきています。従来の考え方や企業の評価方法にも大きな変革の波が押し寄せているのかもしれない。そして、それは企業会計システムのみならず、企業マネジメントにも大きな変革を迫っているようにも見えます。今回の特集が日本企業の会計システムの一助となれば幸甚です。

(平山克己)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 杉野 隆(国土館大学)

委員 井階美歩(株)NTTデータ, 池上敦子(成蹊大学), 大澤義明(筑波大学), 大村弘之(日本電信電話(株)), 岡田 勇(創価大学), 小沢利久(駒澤大学), 住田 潮(筑波大学), 高橋一喜(東京ガス(株)), 所 健一(財団法人電力中央研究所), 中川義之(キヤノンシステムソリューションズ(株)), 生田目崇(専修大学), 根本俊男(文教大学), 松村良平(東京工業大学), 三浦英俊(明海大学), 村井雅彦(株)東芝, 矢田 健(日本電信電話(株))

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成15年9月号 第48巻 第9号 通巻513号

代表者 小笠原 暁

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

<http://www.orsj.or.jp/>

編集人 杉野 隆

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価970円(本体924円)年間予約購読料11,040円(税込)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)へ